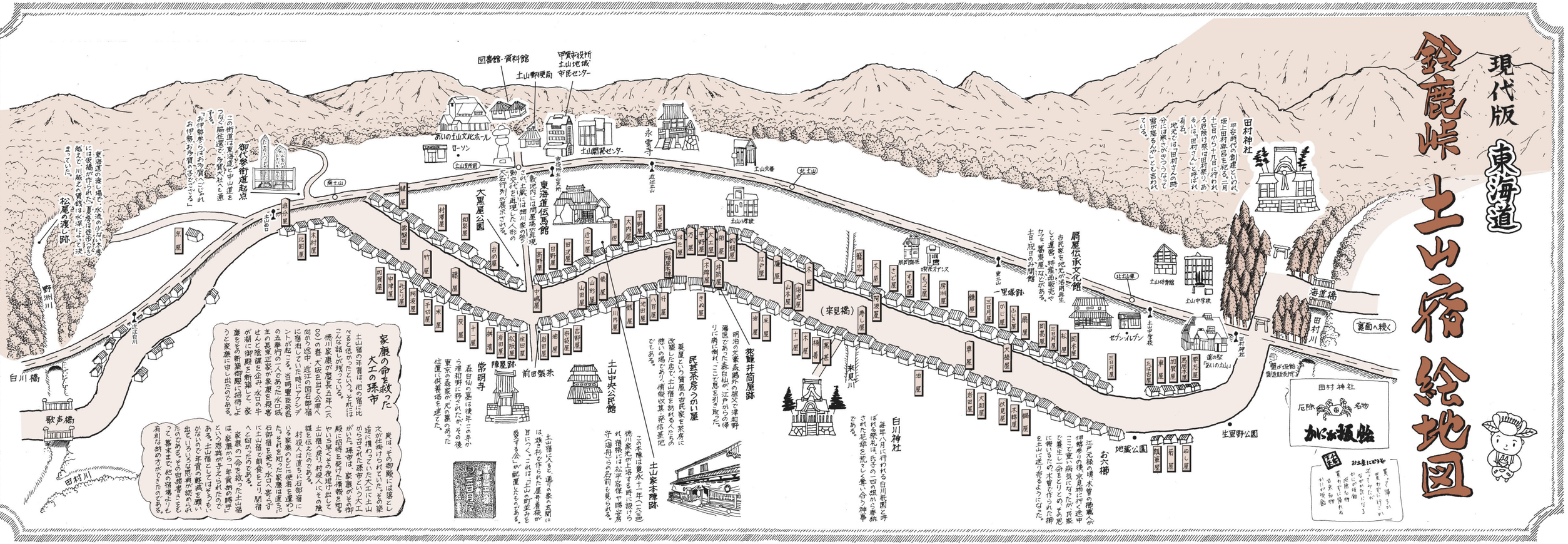
現代版 東海道 鈴鹿峠 土山宿絵地図


図書館・資料館
甲賀市役所 土山地域 市民センター
土山郵便局
あいの土山文化ホール
ローソン
土山支所前
土山開発センター
永寿寺
土山交番
北土山
土山八幡宮
東海道伝馬館
敷地内には問屋場が再現され土蔵には徳川家の品々、動く人形による「公家行列」が展示されている。
大惠屋公園
この街道は東海道と中山道をつなぐ脇街道で、多賀大社とも通ずる。「お伊勢参らばお多賀へ、こしれお伊勢、お多賀の子でござる」
御代参街道起点
「東海道の落し場で、水流の少ない茶屋には仮橋が作られた。夏季は徒歩(かち)賃は水深によって決まっていた。
松尾の渡し跡
南土山
山分屋
土山宿
野洲川
白川橋
歌声橋
田村川
鍵屋
村澤屋
和泉屋
帝製屋
中野屋
中澤屋
阿波屋
千切屋
氷屋
灰屋
十一屋
柳清
陣屋跡
信楽屋
岩田屋
市野屋
田中屋
木村屋
田田屋
日野屋
新野屋
田沢屋
近江屋
中嶋屋
山田屋
山彩屋
懐屋
秋屋
川西屋
三階屋本陣
日野屋
中野屋
きぬ屋
大内屋
平野屋
木綿屋
中嶋屋
はた屋
内屋
大工屋
和屋
前田製茶
土山中央公民館
民芸茶房うがい屋
菱屋という質屋の古民家を茶房に改築した店で、土山宿を訪ねる人たちの憩いの場であり、情報収集・観信基地でもある。
常明寺
森田仙の墓は便宜上この寺から浄相寺に移されたが、その後東京の森家が元の墓のあった位置に供養塔を建てた。
家康の命を救った大工の孫市
土山宿の年貢は他の宿に比べると低かったという。それには、こんな話しが残っている。
徳川家康が慶長五年(一六〇〇)の春、大坂を出て会津へ向かう途中、近江の国石部宿に宿泊していた時にアクシデントが起こる。当時豊臣系石田三成の五奉行の一人であった水口城主の長束正家が家康を殺害せんとし陰謀を企み、水口の牛が潮に御殿を新築して、家康をその新築御殿に招待しようと家康に申し出たのである。
家康は、その御殿には落とし穴が仕掛けられていたため築造に携わっていた大工に土山からつれて来た孫市という大工がいた。孫市は、家康がその御殿に招待を受けた情報を聞いて早くその夜逃げ出して土山宿へ戻り、村役人にその陰謀を伝えたのである。
村役人は直ちに石部宿にある家康のもとに使者を遣わした。それを知った家康は直ちに石部宿を発ち、水口へ寄らずに土山宿で朝食をとり、関宿へと向かったのである。
家康の命を救った土山宿は、家康から「年貢御の時」という恩典が与えられたのである。土山宿としてはそうもいかないので年貢の軽減を願い出ていろいろと恩典が認められたのである。その由緒書きとして、幕末まで他の宿場よりも有利な御めがねをもらったのである。
土山宿に入ると、通りの家の玄関には、焼き杉で作られた屋号看板が目につく。これは「土山の町並みを愛する会」が配置したものである。
明治の文豪森鷗外の祖父で津和野藩医であった森白仙が、江戸からの帰りに病に倒れ、ここで息を引き取った。
茶龍井筒屋跡
土山家本陣跡
この本陣は寛永十一年(一六三四)徳川家光が上洛する時に設けられ、陣屋には松平容保や勝海舟(通称)らの名前も見られる。
(来見橋)
来見川
桶屋
白川神社
毎年八月に行われる白川祇園と呼ばれる祭礼は、氏子の一四の組から奉納された花傘を荒々しく奉い合う神事である。
お六櫛
江戸元禄の頃、木曽の櫛職人が伊勢参りの後、京見物に行く途中ここで重い病気になったが、民家で養生し一命をとりとめ、その恩に報いるため、木曽で作られた櫛を土山に送り届けるようになった。
地蔵公園
生里野公園
蓮面へ続く
海道橋
田村川
田村神社
田村神社
平安時代の創建といわれ、毎年一月十日に行われる厄除け祭は田村祭りあるいは田村さんと呼ばれ有名。地元では田村さんの時分には秋さびがやってくる。豊作祭るんでしょう言われている。
蓮面の駅「あいの土山」
土山中学校
土山体育館
北土山駅
ゼンシルレン
土山中学校
肩屋伝承文化館
古民家を地元が活用再生して運営。特産品販売や竹工芸、蕎麦屋などがある。
土日・祝日のみ開館
東土山
一里塚跡
辰巳園茶
辰巳ティーズ
もりもり
すしめし
さとう
木屋
阿波屋
山本屋
湖北屋
三日月屋
ほたる屋
ひとも屋
懐屋
明島屋
三日月屋
松屋
岡島屋
三日月屋
大徳屋
大和屋
伏見屋
木綿屋
懐屋
岩田屋
市屋
田中屋
十一屋
木屋
桶善
新屋
油屋
懐屋
明石屋
明石屋
明石